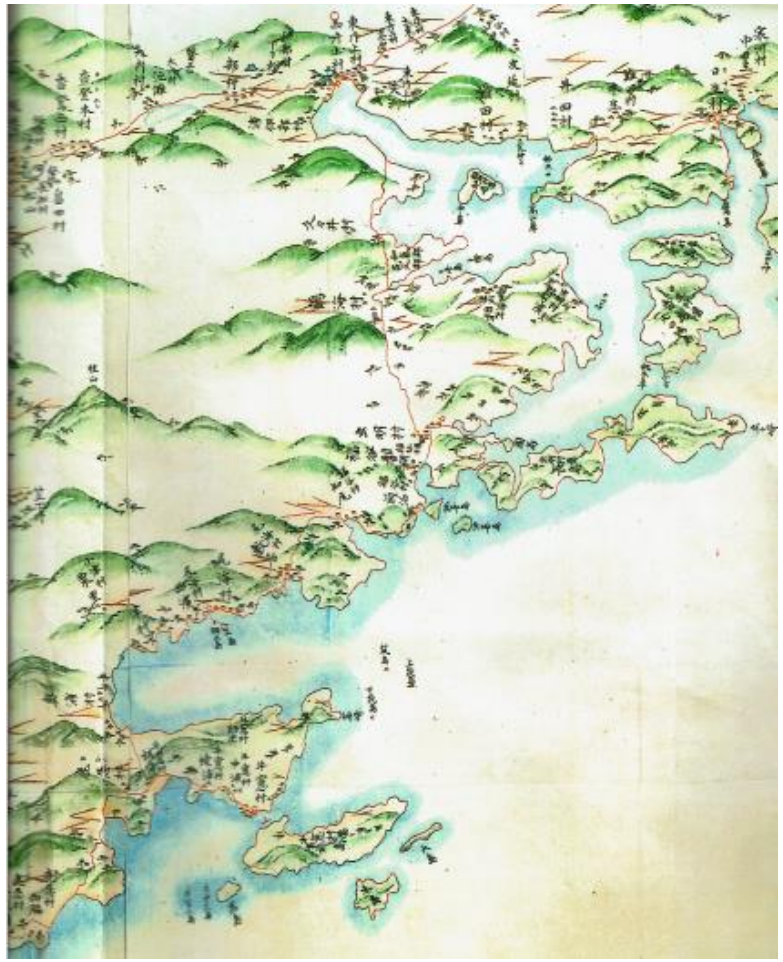
伊能忠敬が測量で歩いた！
瀬戸内市の虫明、尻海、牛窓

Part1
虫明、尻海、牛窓
の足跡をたどる

2022年5月28日
西大寺愛郷会
藤井　英幸



三度の岡山県下、虫明・尻海・牛窓訪問

測量行	出発－帰着	場所	期間
第一次測量	寛政12年（1800年）閏4月19日ー10月21日	蝦夷地	117日間
第二次測量	享和元年（1801年）4月2日－12月7日	伊豆～東日本太平洋側	230日間
第三次測量	享和2年（1802年）6月11日－10月23日	東北日本海側	132日間
第四次測量	享和3年（1803年）2月25日－10月7日	東海・北陸地方	219日間
第五次測量	文化2年（1805年）2月25日－文化3年11月15日 （文化2(1805)年11月1日～文化3年1月28日）	近畿・中国地方 （岡山日生村・**虫明・尻海・牛窓**・西大寺村・岡山城下）	1年 9ヶ月間
第六次測量	文化5年（1808年）1月25日－文化6年1月18日	四国	約1年間
第七次測量	文化6年（1809年）8月27日－文化8年5月8日 （文化6(1809)年11月19～27日） （文化8(1811)年閏2月17日～3月1日）	九州前半 （岡山三石宿・岡山城下・七日市駅） （岡山畑木村・松山城下・岡山城下・片上駅）	1年 9ヶ月間
第八次測量	文化8年（1811年）11月25日－文化11年5月22日 （文化9(1812)年1月8～12日） （文化10(1813)年12月2日～19日）	九州後半 （岡山三石駅・一日市駅・板倉駅・矢掛駅） （岡山馬桑村・津山城下・岡山城下・西大寺村・土居村）	913日間
第九次測量	文化12年（1815年）4月27日－文化13年4月12日	伊豆諸島	約1年間
第十次測量	文化12年（1815年）2月3日－2月19日	江戸	約半月間

表１　伊能忠敬・測量の概要

（１尺＝0.30303mとして換算）

年令（才）	測量回数	測量地方	江戸出発年月日 旧暦	江戸出発年月日 西洋暦	江戸帰着年月日 旧暦	江戸帰着年月日 西洋暦	日数	測量全距離 km（再測量含む）	測量隊旅行全距離（海上旅行距離は含まず）	忠敬自身の旅行距離（不参加部分を除いたもの）
56	I	奥州街道 蝦夷南東岸	寛政12 4.19	1,800 6.11	同年 10.21	1,800 12. 7	180	3,224.89	3,224.89	3,224.89
57	II	相模伊豆	享和1 4. 2	1,801 5.14	同年 6. 6	1,801 7.16	64	572.29	572.29	572.29
		本州東海岸	享和1 6.19	1,801 7.29	同年 12. 7	1,802 1.10	166	2,550.09	2,550 .09	2,379.34
58	III	羽越	享和2 6.11	1,802 7.10	同年 10.23	1,802 11.18	132	1,701.04	1,701.04	1,701.04
59	IV	尾張越前以東	享和3 2.25	1,803 4.16	同年 10. 7	1,803 11.20	219	2,176.63	2,176.63	1,752.45
61～62	V	中国	文化2 2.25	1,805 3.25	文化3 11.15	1,806 12.24	640	5,383.15	6,992.69	5,385.18
64～65	VI	四国	文化5 1.25	1,808 2.21	文化6 1.18	1,809 3. 3	377	3,442.67	4,568.33	4,457.29
65～67	VII	九州一次	文化6 8.27	1,809 10. 6	文化8 5. 8	1,811 6.28	631	7,005.97	7,409.75	6,256.57
67～70	VIII	九州二次	文化8 11.25	1,812 1. 9	文化11 5.25	1,814 7. 9	913	11,530.49	13,083.43	9,378.31
71～72	IX	伊豆七島（忠敬不参加）	文化12 4.27	1,815 6. 4	文化13 4.12	1,816 5. 8	340	1,200.62	1,433.27	0
72	X	江戸府内	文化13 8. 8	1,816 9.29	同年 10.23	1,816 12.11	74	?	?	?
計							3,736日	38,787.84km	43,707.91km	35,108.36km

自身の足で３万５千ｋｍ、ほぼ地球一周４万ｋｍを歩いた

忠敬５６歳から７２歳まで１６年間の歳月をかけ

主測線距離（大日本沿海実測録から集計）

沿海	3,792里16町 1間	＝ 14,894.07km
島嶼湖沼周辺	1,746里11町14間	＝ 6,858.29km
街道	3,048里10町19間	＝ 11,971.54km
計	8,587里 1町34間	＝ 33,723.90km

（保柳睦美博士の計算による）

費用負担額(1両20万円換算)
幕府：11億6千万円
各藩：318億1千万円
忠敬：5千万円
大河への道より

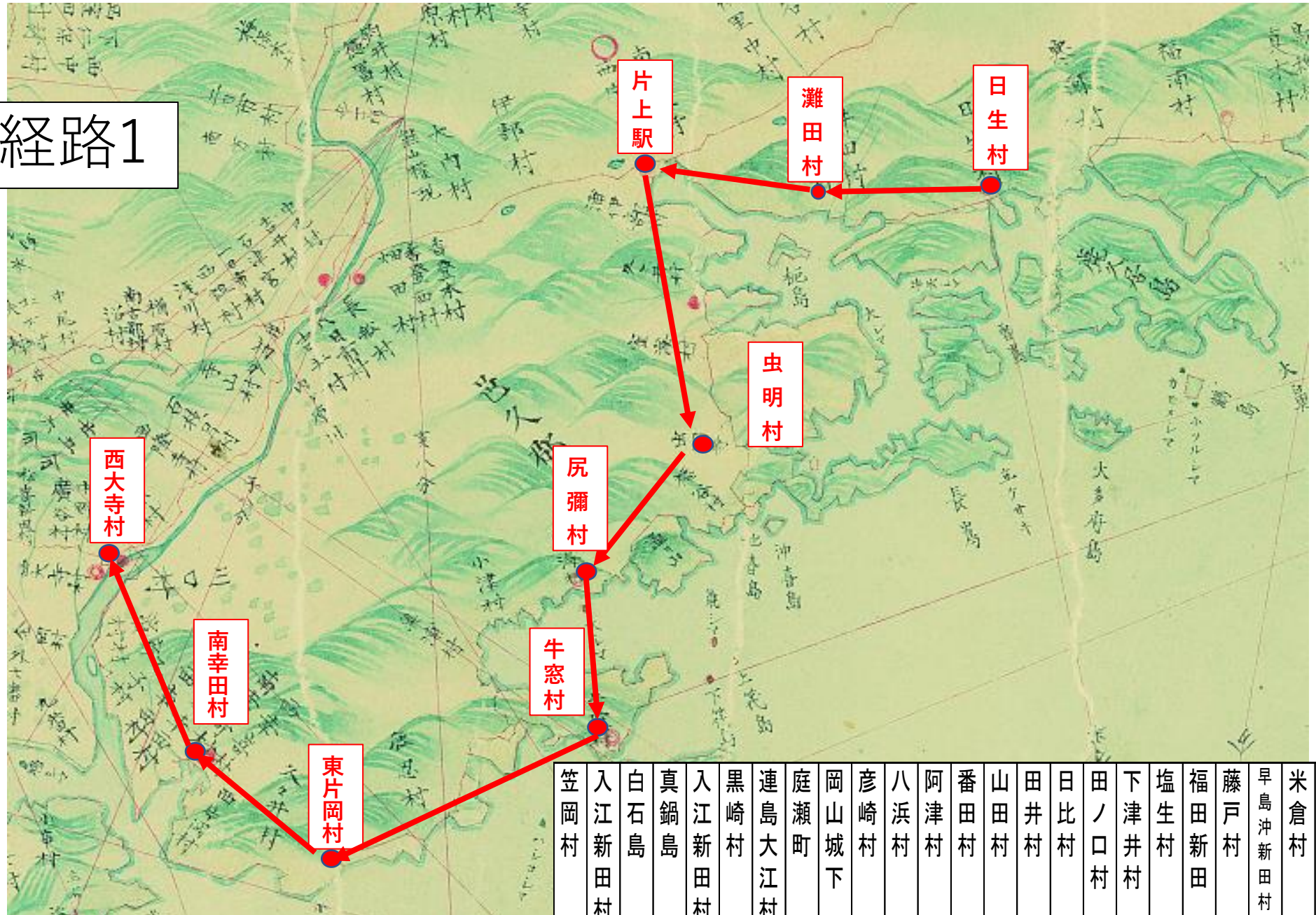
最初の岡山(虫明・尻海・牛窓)

第五次測量
文化2(1805)年2月25日～文化3(1806)年11月15日

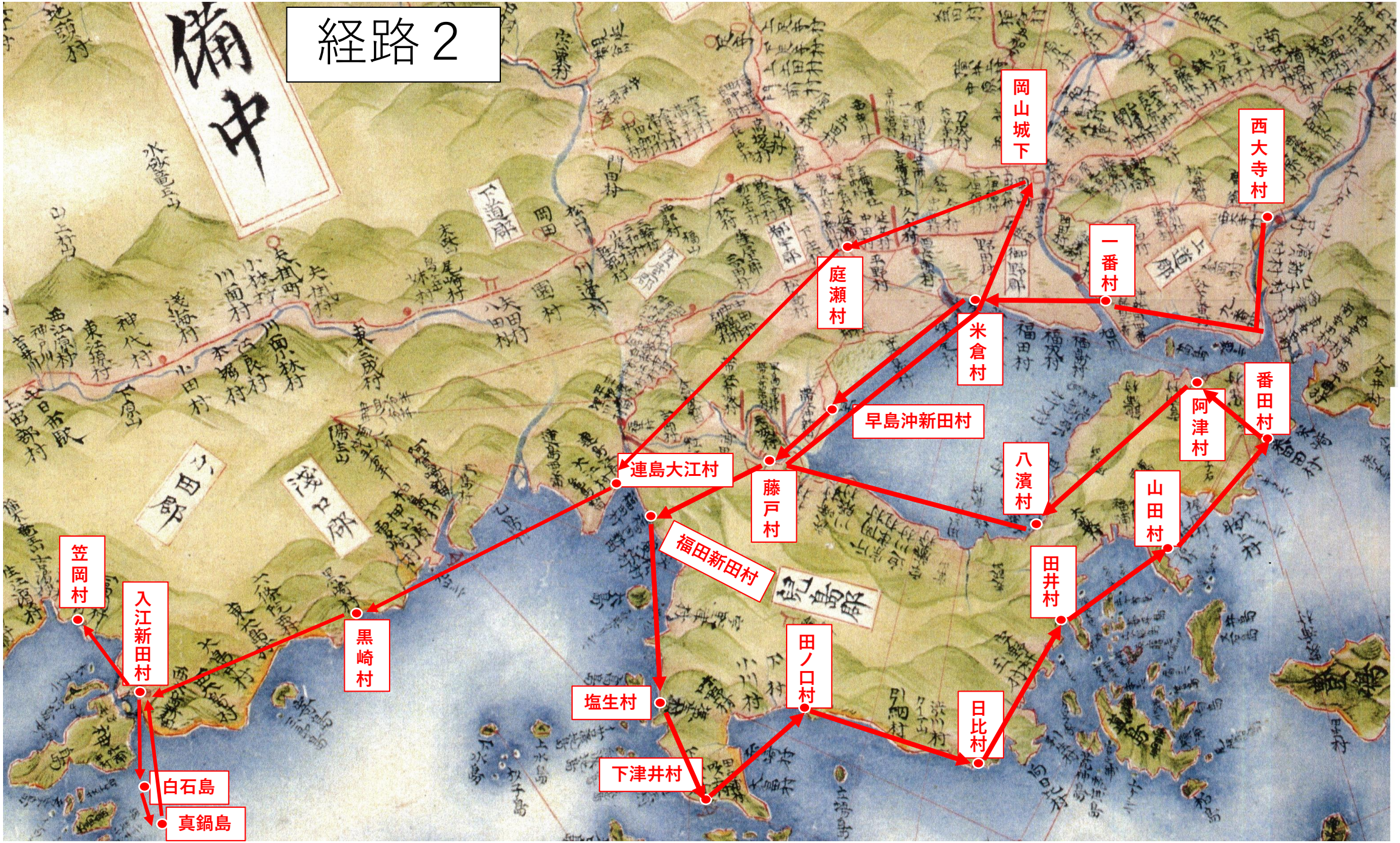
江戸を出発し、東海道を沼津、浜名湖を経て桑名に到着。ここで大手分けを行い、支隊は伊勢の海岸、本隊は 街道を測量して、山田（伊勢市）で合流。のち紀州沿海を一周し大阪に着く。京都、大津を経て、琵琶湖を一周。
尼崎、姫路を経由し、虫明・尻海・牛窓・西大寺・岡山城下に到着。データの整理や控え図の作成などをしながら、越年。
岡山出発、複雑な瀬戸内海の沿海と島々を測量しながら、赤間関（下関）に達する。
忠敬は4月末より持病のおこりとなり、移動しながら療養する。萩、浜田、松江と進み、忠敬は療養のために松江 に残り、測量隊は隠岐に渡る。隠岐全島、出雲、宍道湖を終えたころ、忠敬の病も癒え、松江を出発。
山陰海岸、若狭湾、琵琶湖の東西の街道を測量ののち、東海道を東進、熱田着。以降は測量を行わずに東海道を江戸に向かう。
途中何カ所かで天測を行って、品川宿に帰着。640日、約5400Kmの行程

笠岡村	入江新田村	白石島	真鍋島	入江新田村	黒崎村	連島大江村	庭瀬町	岡山城下	彦崎村	八浜村	阿津村	番田村	山田村	田井村	日比村	田ノ口村	下津井村	塩生村	福田新田	藤戸村	早島沖新田村	米倉村	一番村	西大寺村	南幸田村	東片岡村	牛窓村	尻海村	虫明村	片上駅	難田村	日生村	宿泊地

経路1



宿泊地
日生村
難田村
片上駅
虫明村
尻海村
牛窓村
東片岡村
南幸田村
西大寺村
一番村
米倉村
早島沖新田村
藤戸村
福田新田
塩生村
下津井村
田ノ口村
日比村
田井村
山田村
番田村
阿津村
八浜村
彦崎村
岡山城下
庭瀬町
連島大江村
黒崎村
入江新田村
真鍋島
白石島
入江新田村
笠岡村

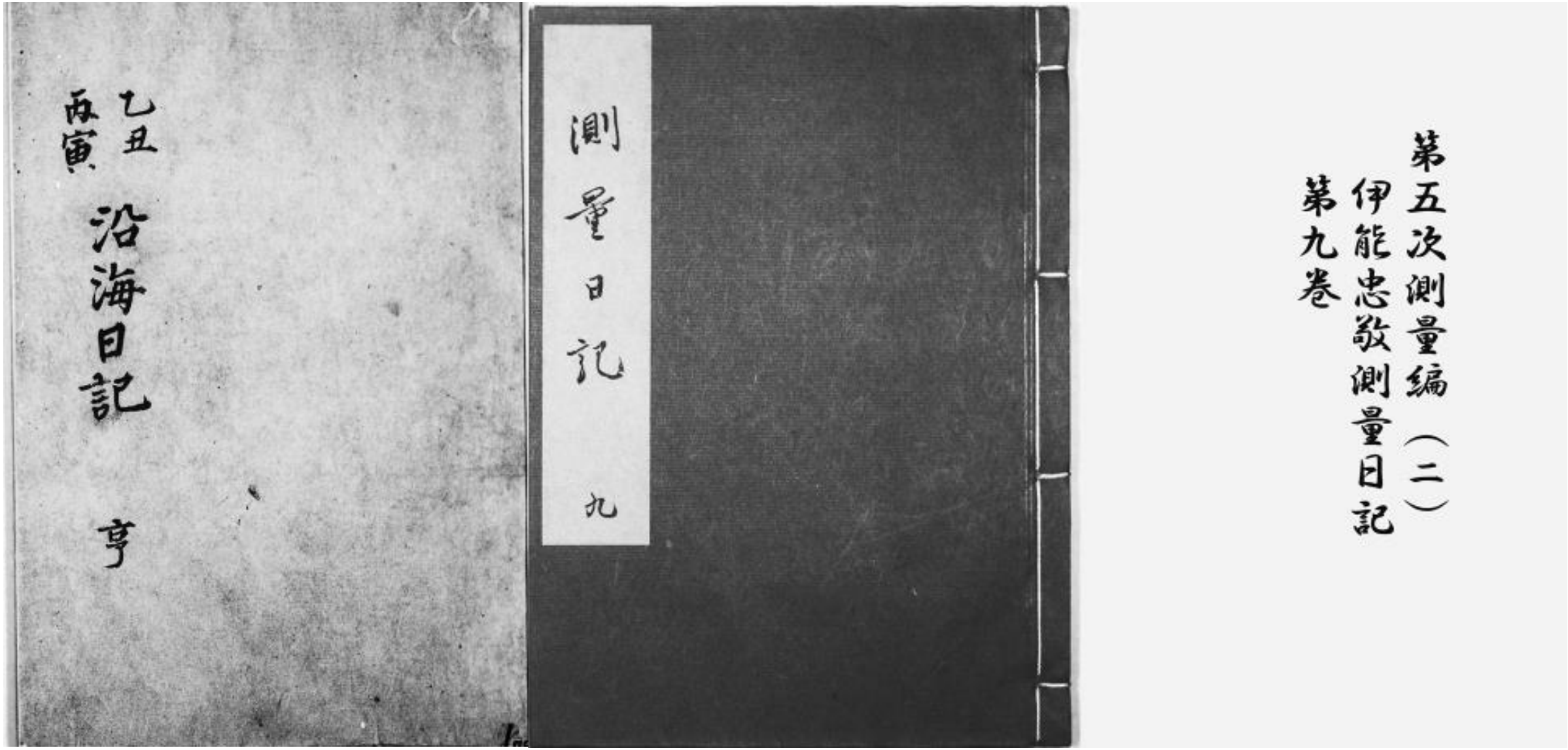

経路２
備中
岡山城下
西大寺村
一番村
庭瀬村
米倉村
早島沖新田村
番田村
阿津村
八濱村
山田村
連島大江村
藤戸村
福田新田村
田井村
笠岡村
入江新田村
黒崎村
田ノ口村
塩生村
日比村
下津井村
白石島
真鍋島

第5次測量隊

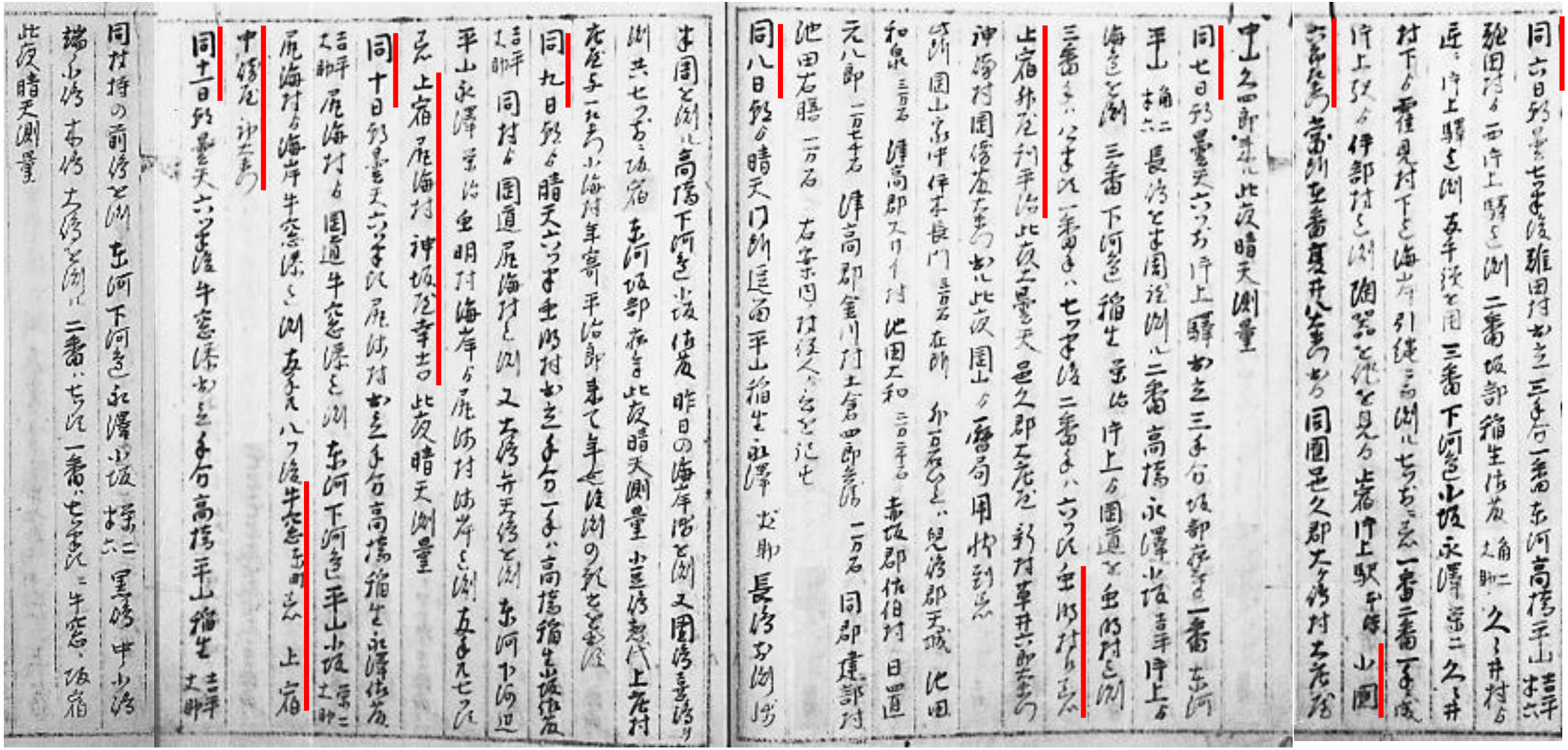
	名前	説明
隊長	**東河**	**伊能忠敬**
天文方	**高橋**	**高橋善助**（渋川景佑 。**高橋至時の次男**で、後に天文方渋川富五郎正陽の養子になる。
	坂部	坂部貞兵衛。数学を学んで暦局に出仕。忠敬の信頼が厚く、副隊長格だった。
	下河辺	下河辺政五郎。西丸御書院番小笠原若狭守組同心
内弟子	平山	平山郡蔵。通称藤右衛門。タミの兄、平山藤右衛門の孫。
	稲生	**伊能秀蔵。忠敬の子。**
	永沢	永沢藤次郎。下総国佐原の人。忠敬と同郷。
	小坂	小坂寛平
供侍	佐藤	佐藤伊兵衛。初めは下僕として測量隊に参加したが、後に忠敬の従臣となる。
従者	丈助	忠敬の従者
	半六	忠敬の従者
	総兵衛	惣兵衛。高橋善助の従者
	角二	坂部貞兵衛の従者
	栄治	下河辺政五郎の従者
竿取	利助	
	吉平	
随身	弥右衛門	
	浅五郎	窪田浅五郎。岡山市東区君津出身の岡山藩士。
	丈右衛門	平松紹右衛門。備中国二日市村(倉敷市二日市)の大庄屋

総勢16名（随身3名除く）

伊能忠敬の虫明～尻海～牛窓訪問　第五次測量



伊能忠敬測量日記第九巻
第五次測量　文化二年十一月七日～十一日（虫明～尻海～牛窓）



文化二年十一月

同六日　朝曇　七ツ半後灘田村出立三手分　一番東河　高橋　平山(吉平半六)灘田村ゟ西片上駅迄測　二番　坂部　稲生　佐藤(角二・丈助)久々井村ゟ逆に片上駅迄測　両手鎖を用　三番下河邊　小坂　永澤　栄二　久々井村下ゟ鶴海村下迄海岸引縄にて測ル　七ツ前二着　一番二番一手に成　片上駅ゟ伊部村迄測　陶器を作を見る　止宿片上駅本陣小國六郎左衛門　當所在番夏井八右衛門出る　同国邑久郡大ケ島村大庄屋中山久四郎来る　此夜晴天　測量

同七日　朝曇天　六ツ前片上驛出立　三手分　坂部病気　一番東河　平山(角二・半六)長嶋を半周程測ル　二番高橋　永澤　小坂　吉平　片上ゟ海辺を測　三番下河邊　稲生　栄治　片上ゟ岡道を虫明迄測　三番手ハ八ツ半頃　一番手ハ七ツ半後　二番手ハ六ツ頃**虫明村**へ着　**止宿升屋利平治**　此夜大曇天　邑久郡大庄屋新村草井六郎右衛門　神埼村岡崎藤右衛門出ル　此夜岡山ゟ暦局用状到着　此所岡山家中伊木長門（三万石）在所　外万石以上は児島郡天城池田和泉(三万石)津高郡スサイ村池田大和(二万二千石)赤坂郡佐伯村日置元八郎(一万七千石)津高郡金川村大倉四郎兵衛(一万石)同郡建部村池田右膳(一万石)　右案内の村役人の言を記す

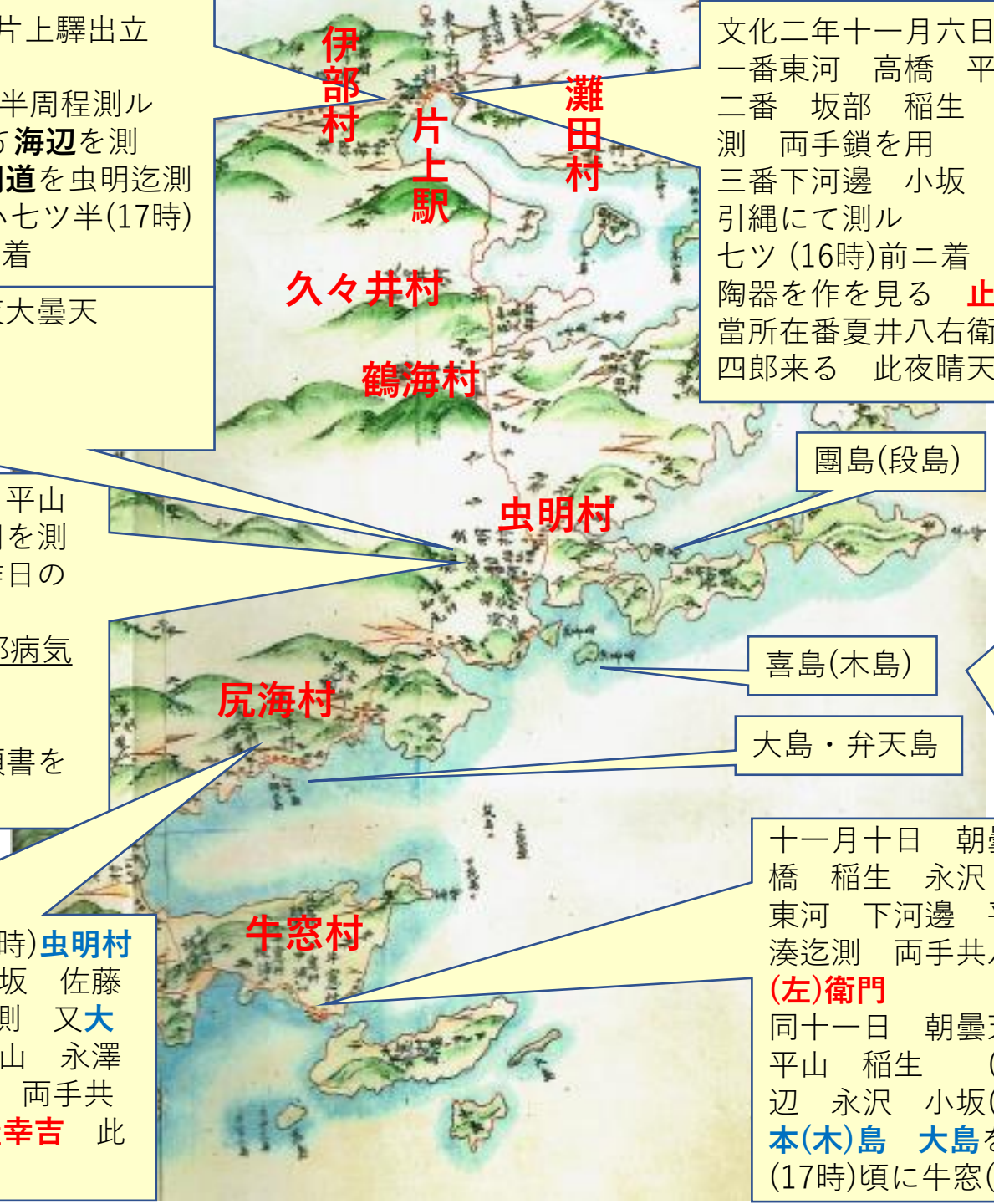
同八日　朝ゟ晴天　**同所逗留**　平山　稲生　永澤　丈助　長嶋前測残半周を測ル　高橋　下河邊　小坂　佐藤　昨日の海岸残を測　又團島　喜島を測　共七ツ前ニ**帰宿**　東河　坂部病気　此夜晴天測量　小豆島総代上庄村庄屋与一左衛門　小海村年寄平治郎来て年延後測の願書を出す

同九日　朝より晴天　六ツ半虫明村出立　手分　一手ハ高橋　稲生　小坂　佐藤(吉平　丈助)同村より岡道尻海村迄測　又大島　弁天島を測　東河　下河辺　平山　永澤(栄二)虫明村海岸ゟ尻海村海岸迄測　両手共七ツ頃着　**止宿尻海村神村屋幸吉**　此夜晴天　測量

同十日　朝曇天　六ツ半頃尻海村出立手分　高橋　稲生　永沢　佐藤(吉平丈助)尻海村ゟ岡道牛窓湊迄測　東河　下河邊　平山　小坂(栄二・丈助)尻海村ゟ海岸牛窓湊迄測　両手共八ツ後牛窓東町着　**止宿**　**中崎屋初右衛門**

同十一日　朝曇天　六ツ半後牛窓湊出立　手分　高橋　平山　稲生(吉平　丈助)　同村の前島を測　東河　下河辺　永沢　小坂(栄二　半六)　黒島　中ノ小島　端ノ小島　本(木)島　大島を測る　二番は七ツ頃　一番は七ツ半頃に牛窓(中崎屋初右(左)衛門)へ帰宿。此夜晴天測量

同十二日　朝曇天　六ツ後牛窓村出立　高橋　永澤　佐藤へ東河差添　海岸東片岡村迄測　下河辺　稲生　小坂　牛窓湊より岡を東片岡村迄測ル　両手一同二八ツ後二着　止宿東片岡村字宝伝　伝治郎　嘉三郎　吉治郎三軒　此夜雨　四ツ頃より止テ曇天



十一月七日　朝曇天　六ツ (6時)前片上驛出立
三手分　坂部病気
一番東河　平山(角二　半六)**長嶋**を半周程測ル
二番高橋　永澤 小坂　吉平　片上ゟ**海辺**を測
三番下河邊　稲生　栄治　片上ゟ**岡道**を虫明迄測
三番手ハ八ツ半 (15時)頃　一番手ハ七ツ半(17時)後　二番手ハ六ツ(18時)頃**虫明村**へ着

十一月七日　**止宿升屋利平治**　此夜大曇天
邑久郡大庄屋新村草井六郎右衛門
神崎村岡崎藤右衛門出ル
此夜岡山ゟ暦局用状到着

文化二年十一月六日　朝曇　七ツ半(5時)後**灘田村**出立　三手分
一番東河　高橋　平山(吉平 半六)灘田村ゟ西片上駅迄測
二番　坂部　稲生　佐藤(角二　丈助)**久々井村**ゟ逆に片上駅迄測　両手鎖を用
三番下河邊　小坂　永澤　栄二　久々井村下ゟ**鶴海村**下迄海岸引縄にて測ル
七ツ (16時)前ニ着　一番二番一手に成　片上駅ゟ**伊部村**迄測
陶器を作を見る　**止宿片上駅本陣小國六郎左衛門**
當所在番夏井八右衛門出る　同国邑久郡大ケ島村大庄屋中山久四郎来る　此夜晴天　測量

十一月八日　朝ゟ晴天　同所逗留　平山
稲生　永澤　丈助　長嶋前測残半周を測ル　高橋　下河邊　小坂　佐藤　昨日の**海岸**残を測　又**團島**　**喜島**を測
共七ツ (16時)前ニ帰宿　東河　坂部病気
此夜晴天測量
小豆島総代上庄村庄屋与一左衛門
小海村年寄平治郎来て年延後測の願書を出す

十一月七日
此所岡山家中伊木長門（三万石）在所
外万石以上は
児島郡天城池田和泉（三万石）
津高郡周匝村池田大和（二万二千石）
赤坂郡佐伯村日置元八郎（一万七千石）
津高郡金川村大倉四郎兵衛（一万石）
同郡建部村池田右膳（一万石）
右案内の村役人の言を記す

十一月九日　朝より晴天　六ツ半(7時)**虫明村**出立　手分　一手ハ高橋　稲生　小坂　佐藤(吉平　丈助)同村より**岡道**尻海村迄測　又**大島**　**弁天島**を測　東河　下河辺　平山　永澤(栄二)虫明村**海岸**ゟ尻海村海岸迄測　両手共七ツ (16時)頃着　**止宿尻海村神坂屋幸吉**　此夜晴天　測量

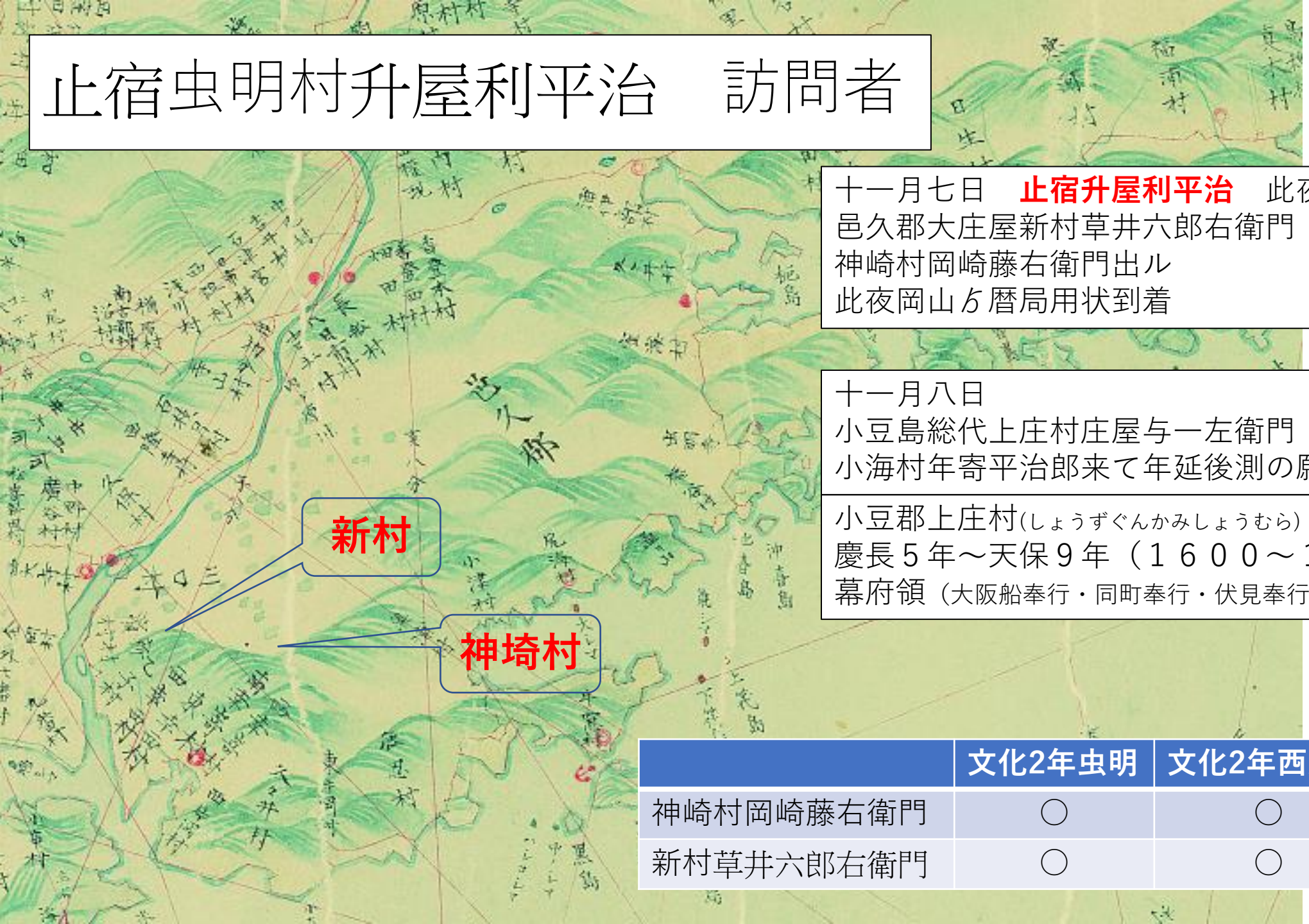
十一月十日　朝曇天　六ツ半(7時)頃**尻海村**出立　手分　高橋　稲生　永沢　佐藤(吉平丈助)尻海村ゟ**岡道**牛窓湊迄測
東河　下河邊　平山　小坂(栄二　丈助)　尻海村ゟ**海岸**牛窓湊迄測　両手共八ツ(14時)後**牛窓東町**着　**止宿中崎屋初右(左)衛門**
同十一日　朝曇天　六ツ半(7時)後牛窓湊出立　手分　高橋　平山　稲生　(吉平　丈助)　同村の**前島**を測　東河　下河辺　永沢　小坂(栄二 半六)　**黒島**　**中ノ小島**　**端ノ小島**　**本(木)島**　**大島**を測る　二番は七ツ(16時)頃　一番は七ツ半(17時)頃に牛窓(中崎屋初右衛門)へ帰宿。此夜晴天測量

止宿虫明村升屋利平治　訪問者

十一月七日　**止宿升屋利平治**　此夜大曇天
邑久郡大庄屋新村草井六郎右衛門
神崎村岡崎藤右衛門出ル
此夜岡山ゟ暦局用状到着

十一月八日
小豆島総代上庄村庄屋与一左衛門
小海村年寄平治郎来て年延後測の願書を出す

小豆郡上庄村(しょうずぐんかみしょうむら)・小海村(おみむら)：
慶長５年～天保９年（１６００～１８３８）
幕府領（大阪船奉行・同町奉行・伏見奉行・倉敷代官などの支配）



	文化2年虫明	文化2年西大寺	文化10年西大寺
神崎村岡崎藤右衛門	○	○	
新村草井六郎右衛門	○	○	○

岡山藩家中

十一月七日
此所岡山家中伊木長門（三万石）在所
外万石以上は
児島郡天城池田和泉（三万石）
津高郡周匝村池田大和（二万二千石）
赤坂郡佐伯村日置元八郎（一万七千石）
津高郡金川村大倉四郎兵衛（一万石）
同郡建部村池田右膳（一万石）
右案内の村役人の言を記す

家老家

大藩であったため、池田家の家老は軒並み1万石超と大名並みの石高を誇り、領地に陣屋（幕府に遠慮し「お茶屋」と称した）を構えていた。明治維新後は1万石超の石高を有した6家が男爵に叙せられ、華族に列した。

伊木家（備前虫明領3万3000石・重臣）筆頭家老

天城池田家（備前天城領3万2000石、藩主一門）

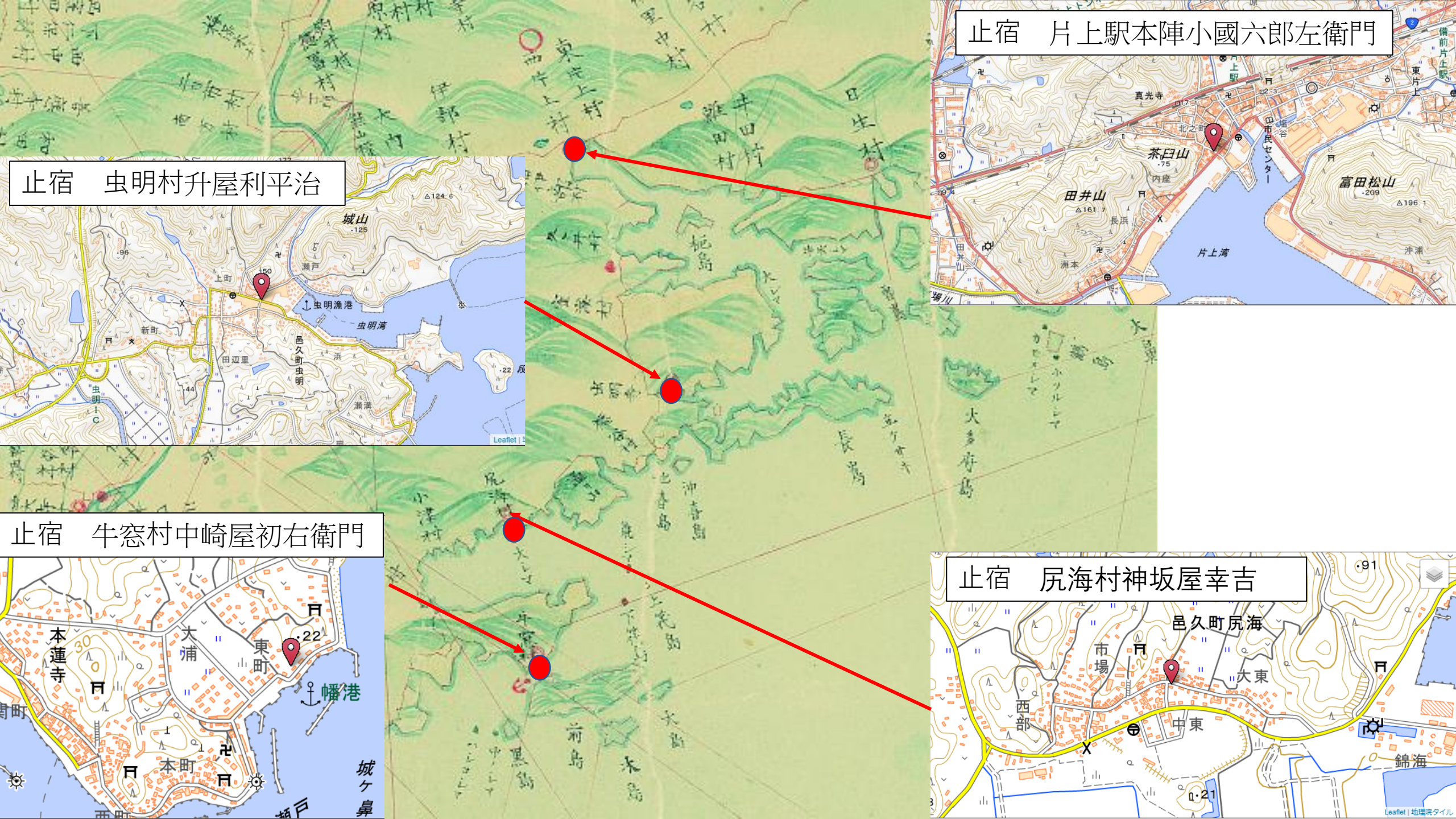
片桐池田家（備前周匝領2万5000石、藩主一門）

日置（へき）家（備前金川領1万6000石・重臣）

建部池田家（備前建部領1万4000石、藩主一門）

土倉（とくら）家（備前市場領1万石、重臣）

岡山藩 – Wikipedia　より


止宿　片上駅本陣小國六郎左衛門
真光寺
茶臼山
田井山
富田松山
片上湾
止宿　虫明村升屋利平治
城山
虫明漁港
虫明湾
止宿　牛窓村中崎屋初右衛門
本蓮寺
大浦
東町
幡港
本町
城ヶ鼻
止宿　尻海村神坂屋幸吉
邑久町尻海
市場
大東
西部
中東
錦海

止宿　片上駅本陣小國六郎左衛門

国道２５０号「備前郵便局前」信号から５０ｍ程南西へ進んだ次の信号「片上」を右折し、３０ｍ程進んだ左手が居館です。

止宿　虫明村升屋利平治／伊木氏茶屋跡

升屋邸跡
現在は裳掛食料企業組合の社屋になっている。

伊木氏茶屋跡
岡山藩筆頭家老第３代伊木忠貞によって虫明に構えられた伊木家の陣屋。知行地の当主の屋敷であったが幕府への配慮から「御茶屋」と称した。と記されている。

虫明村　地名の由来

読み方は、ムシアゲ、ムシアケの二通りありま すが、公的な場合には前者の濁音がつくムシアゲという読み方を用います。

地名の由来は、夜の浜辺で夜光虫がよく見られた場所だった事 です。

夜光虫は発光をするプランクトンの一種です。

夜の海に青い光を浮かび上がらせる非常に美しい生き物ですが、赤潮の原因となる生物としても知られています。

牡蠣の名産地として知られるほか、美しい夕日や、稀にだるま朝日（登って来た朝日と、水面に移った朝日が合わさって ダルマのように見える現象）を見ることが出来るスポットして、写真愛好家からも人気の地区です。

瀬戸内市虫明の地名の由来/岡山の街角からhttps://okayamania.com/chimei//bizen/mushiake.htm　より

古へは、東藻掛村とも書しよし、されども古き書に虫明と書けり。藻掛とかきても、むかけとよむといふ。（吉備温故秘録より）

止宿　尻海村神坂屋幸吉

神坂家は江戸時代の北前船の廻船問屋として莫大な財を成し、その住まいである「神坂邸」は、このあたりでは非常に珍しい数寄屋造りの建物でした。内部の壁には弁柄（旧石器時代から使われた最古の顔料）が用いられていたり、お茶の炉が4つも作られていたりと、細部に至るまで趣向が施されています。この屋敷は地域でも存在感を放っていたようで、伊能忠敬も測量の際に滞在したと言われています。（玉津コミュニティセンターの北側旧道東側）

神坂邸 古民家の再生と北前船の尻海のまちづくりプロジェクト - クラウドファンディングのMotionGallery (motion-gallery.net) より

尻海村　地名の由来

神功皇后が潮待ちの最中に牛窓半島の岬へ鏑矢を打つと言う余興を行いましたが、その際に海へ乗り入れるのに使われたのが白鷹という馬です。この馬は船に戻るのに失敗して、そのまま入り江を泳いでいってしまいました。『尻海』はこの白鷹が走っていくのがが目撃された場所です。
『お尻を見た』が転じて、尻海（しりみ）になったと言われています。

お婆さんのお尻説
　尻海の地名の由来には、もう一つ別の説が伝えられています。
　大人（＝大きい人）の婆さんと呼ばれた女性の伝説に由来するという説です。
　大人の婆さんは身長が3mもあろうかと言う非常に巨大な人間でした。
　普段の移動も山から山へと跳躍できるほどの身体能力を持っていました。
　ある時、その跳躍力で小豆島へ行ってみようと思い立ち、岬から思い切り地面を蹴り上げて跳躍していきました。しかしその拍子に着物がめくれて、お尻が丸見えになってしまいました。
　大人の婆さんもやはり女性。それを慌てて直そうとした為にバランスを崩し、そのまま海に落ちて沈んで　行ってしまったそうです。
　この時、お婆さんのお尻が見えた場所が、尻海の地名になったともされています。

瀬戸内市邑久町尻海の地名の由来/岡山の街角からhttps://www.okayamania.com/chimei/bizen/shirimi.htm　より

止宿　牛窓村中崎屋初右(左)衛門

街角ミュゼ牛窓文化館の東側、お茶屋跡の向かい側の立派な建物
唐子饅頭店主の金谷芳寛さんに案内いただきました。

牛窓村　地名の由来

「牛窓」は、万葉集に登場する古い地名です。
「牛間戸」（『山槐記（さんかいき）』1179年）
「卯島津」（『海東諸国記（かいとうしょこくき）』1467年）
「宇嶋門」（『室町幕府奉行人連署奉書』1552年）
「宇志間門」（『三藐院記（さんみゃくいんき）』1592年）
「うしまと」（『鹿苑院殿厳島詣記（ろくおんいんどのいつくしまもうでのき）』1389年）
「牛窓」（『源頼朝下文（みなもとのよりともくだしぶみ）』1185年）など
古くはいろいろな漢字が当てられています。

地名由来で有名なのは、神功皇后（じんぐうこうごう）伝説にまつわる話です。

「牛轉（うしまろひ）」（『風土記逸文（ふどきいつぶん）』200年頃）
「神功皇后のみ舟、備前の海上を過ぎたまひし時、大きなる牛あり、 出でてみ舟を覆さむとしき、住吉の明神、老翁と化りて、其の角を以ちて、投げ倒したまひき、故に其の処を名づけて牛轉（うしまろひ）と曰ひき、今、牛窓と 云うは訛れるなり。」とあります。
大きな牛が転んだ所を「牛転(うしまろび)」と呼ぶようになり、やがて訛って「牛窓」になったとのことです。

牛窓町の沿革 - 瀬戸内市公式ホームページhttps://www.city.setouchi.lg.jp/soshiki/7/3409.html　より

伊能忠敬が訪れた瀬戸内市の島々

虫明村

長島：周囲15.95km、東西4.19km、愛生園、光明園、伊木家の墓所あり。

團島(段島)：周囲730m、標高18m、全島開畑し出耕作している。

喜島(木島)：周囲480m、全島芝草に覆われ、松の植林あり。

尻海村

大嶋：周囲440m、塩田干拓により陸続きになっている。

弁天島：周囲150m、塩田干拓により陸続きになっている。

牛窓村

大島(青島)：周囲2.2km、標高18m、山笹の色が青島に。

木島(黄島)：周囲4.5km、標高58.7m、吉備温故に木島とある。

前島：周囲8km、標高136.3m、古名を塵輪島といった。

黒島：周囲1.5km、標高18m、昔には凸凹島と呼ばれていた。

中ノ小島：干潮時に黒島とビーナスロードでつながる。

端ノ小島：干潮時に黒島とビーナスロードでつながる。

伊能忠敬　第五次測量隊　岡山県内の足跡　日生村～一番村

宿泊日 旧暦	西暦	天気	止宿場所	宿泊宅	天体観測	測量地		天文方			内弟子				供侍	従者					竿取		随身		
							東河	高橋	坂部	下河辺	平山	稲生	永沢	小坂	佐藤	丈助	半六	総兵衛	角二	栄治	利助	吉平	弥右衛門	浅五郎	丈右衛門
文化2年 11月2日	1805年 12月22日	朝　晴	日生村	藤兵衛 本家与左衛門	○	福浦村海辺より寒河村を経て日生村まで海岸を測る		○		○			○	○						○		○			
		夜　晴				福浦村より陸道、日生村まで測り、午後に着	○		○		○	○				○	○		○						
11月3日	12月23日	朝　晴	大多府島	本陣幸吉	○	鹿久居島周七里余測る		○					○	○			○					○			
		夜　晴		脇宿政七		鹿久居島周七里			○		○				○				○						
				脇宿沢五郎		鶴島（周十八町）、鴎島、オツルギ島	○			○		○				○				○						
11月4日	12月24日	朝　晴	日生村	藤兵衛		大多府島と頭島を測る	○			○		○				○				○					
		夜　晴				梔島（クチナシジマ）を測る		○					○	○			○					○			
						曽島と日生村より難田村界まで測る			○		○				○				○						
11月5日	12月25日	朝　晴	難田村	三郎兵衛		梔島（クチナシジマ）を測る	○	○						○			○					○			
		夜　曇				日生村より海岸難田村まで測る						○	○		○		○								
						日生村より難田村まで岡道を測る			○	○	○								○	○					
11月6日	12月26日	朝　曇	片上駅	小国 六郎左衛門	○	難田村より西片上駅まで測る	○	○			○						○					○			
		夜　晴				久々井村より片上駅まで測る			○			○			○	○			○						
						久々井村下より伊部村まで測る				○			○	○						○					
11月7日	12月27日	朝　曇	虫明村	升屋利平治		長島を半周程測る	○		病気		○						○		○						
		夜　曇				片上より海辺を測る		○					○	○								○			
						片上より岡道を虫明村まで測る				○		○								○					
11月8日	12月28日	朝　晴	虫明村	升屋利平治	○	長島前測り残半周を測る	病気		病気		○	○	○			○									
		夜　晴				片上より海岸残り、団島、喜島を測る		○		○				○	○										
11月9日	12月29日	朝　晴	尻海村	高坂屋幸吉	○	虫明村より岡道尻海村まで、大島、弁天島を測る		○				○		○	○	○						○			
		夜　晴				虫明村海岸より尻海村海岸まで測る	○			○	○		○							○					
11月10日	12月30日	朝　曇	牛窓村	中崎屋 初右衛門		尻海村より岡道牛窓湊まで測る		○				○	○		○	○						○			
						尻海村より海岸牛窓湊まで測る	○			○	○			○						○					
11月11日	12月31日	朝　曇	牛窓村	中崎屋 初右衛門	○	前島を測る		○			○	○				○						○			
		夜　晴				黒嶋、中ノ小島、、端ノ小島、本島、大島を測る											○			○					
11月12日	1806年 1月1日	朝　曇	東片岡村	伝次郎	○	牛窓村から海岸沿いに東片岡村まで測る	○	○					○		○										
				嘉三郎		牛窓村から岡を東片岡村まで測る				○		○		○											
		夜雨のち曇		吉治郎																					
11月13日	1月2日	朝　晴	南幸田村	磯屋太平	○	沖鞍地島、犬島、竹子島、沖竹子島を測る	○			○			○	○			○			○					
		夜　晴				東片岡村より南幸田村へ		○				○			○	○						○			
11月14日	1月3日	朝　晴	西大寺村	坂口屋 松左衛門	○	乙子村より西大寺村迄鎖にて測る		○					○						○			病			
		夜晴（大西風）				南幸田村より乙子村まで測る				○		○		○		○				○					
11月15日	1月4日	朝　曇	一番村	安太夫	○	九番村より初、一番村まで測る		○		○		○			○	○				○		病			
		（雪）夜晴				西大寺村より九番村まで測る	○		○				○	○			○		○						